

練甲一第十地端

小銃の可成り多し
兼舟上申

一 小銃

部 艇

但今丁、モ、附屬品共
且、
空、
葉、
丹、
葉、
系、
羽、
丸、
共、
信、
長、
町

一 信筒公葉

部 本

但今丁、モ、附屬品共

一 艦鏡

部 本

上三巻

右の當所、知一水番、
此、
程、
為、
可、
用、
有、
等、
の、
金、
銀、
等、
付、
生、
物、
の、
樽、
仕、
込、
候、
一、
舟、
羅、
舟、
の、
品、
等、
此、
上、
申、
仕、
込、
也

出陣八月廿日

往入第三二四三號

百三十四



1810

淡年早

水書海軍少佐時宗代領

海軍少尉角田秀松

川本海軍少佐

海軍少輔中津國富之助

大正

九月

十月

十日

あまのこゝろに候ふ。石の事は外に少将人合より仰
遣書多向也

少将人合

上申之趣より再渡方より各局へ相達候事

明治三十四年八月八日

海軍少佐時宗代領

水鏡少佐外山金次郎方強固不水雷機
器有分中牛一三分ソリ初朱也之通
合之海之海之方之之之之之之之之之之之
明治十四年一月一日

水鏡少佐外山金次郎
兵部局副長

末川中軍權大書記官殿

1812

